



ぴーちく ぱーちく



〒569-0082

大阪府高槻市明野町 10-15 ぷりんせす明野 1F

TEL : 072-672-1294 Mail : wffcj830@yahoo.co.jp

第 46 号

2015.2.24 発行

編集・発行 NPO法人自立支援センターたかつき

リニューアルしましたあ！、重度訪問介護勉強会

昨年から月一回、有志たちで開いていた、重度訪問
 介護の勉強会の意義について考え直し、今月より
 リニューアルオープンしました。その第一回目として、
 自分たちがいつも使っている重度訪問介護の制度自体
 を知ろうと、重度訪問介護について分かりやすく書か
 れた資料を読み合わせし、意見を出し合いました。



改めて読むと、いつも使っているヘルパーの制度な
 のに、新たな発見があったり、サービス内容の「相談・
 助言」ってどういうこと？といった疑問も出ました。(ちなみにですが、相談・助言とは、ヘルパー
 に「今日どのスーパーが安い？」など日々の些細な質問など、介助中にやりとりすること
 などを言うようです)今回、重度訪問介護の制度について勉強しなおして、やっぱり自分が使う
 制度を知っておかなければならないなと改めて思いました。

この勉強会は今後も制度の学習や、日々感じていること、しんどいことなどを話し合
 っていけるものにしていければなと思っています。毎月第三月曜日11時より、フォーラムで
 やっているので興味がある方はお気軽にご参加ください。(ひろき)

高障連(高槻市障害児者団体連絡協議会)の対市交渉に参加してきました～！



私もかじった程度ですが参加しました。そして移動支援のところで初めて少しか
 けましたが、発言しました。手を挙げているのになかなか気づいてもらえず、気づいても
 らえたとしたらスルーされ、自分の番は廻って来ないかなと思ったら、フォーラムメ
 ンバーが手を挙げて援護射撃してくれました。私達も障がいを持っていても、健常者と同じよ
 うに色んな所に出掛けて楽しみたいんだという内容を発言させていただきました。(みか)



やり取りを聞いてて思ったのは、たとえばグループホームから年末年始に親の家に
 帰った人が、親が高齢で無理なので入浴介助をヘルパーに頼みたいという要望を、
 高槻市が認めず、数日お風呂に入れなかった人のお話など、「困ってる」ということに
 「だめ」というだけっておかしくないか・・本当に絶対に支給できないのか調べつくしたのかし
 ら？他に方法がないのかしら？ということでした。うむむ・・。それと、内容的にフォーラムの皆
 がどこで発言したらいいかわからんな～と思いつつ行きました。しかし・・何のこたあない、
 参加したフォーラムの皆さんは全員発言してました！杞憂とはこのことか・・。(な)

シリーズ わたし じりつせいかつ とくだいごう さいとうまさこ
私の自立生活 (まだまだ終わらない特大号♥斎藤雅子さん)

じりつ ねん ふ かえ わたし せいかつし しょう しゃもんだい
自立して34年を振り返って~私の生活史から障がい者問題へ(3)~

さいごろ あお しば かい はい
* 19歳頃~青い芝の会に入って~

19歳の頃に「りぼん」のそよ風のように町に出よう運動が在宅障害者の訪問を始めていました。私の家にも紹介してくれた、大学を卒業した女性に教えられてか、3人の健全者が訪ねてきました(河野氏、古井氏、女性の学生)。私は妹が「ゴリラ(介助者グループの名前)の人が来たよ」と聞いたときは

何処の動物園から来たのかと思いました。3人は「障害者が当たり前」の町の喫茶店や店に入れないのは差別があるからや、「一緒に遊びに行ってみよう」とか「キャンプに参加してみないか」と話をされましたが、当時の私はぴんとこずに「今の自分の生活を壊されたくない」という想いのほうが強くあり、断っていました。

そうして、ある時に男子バレーの試合がどうしても見に行きたいのに、父親の都合も合わず従兄弟に頼んでも、都合が悪いと言われたのです。私は(そうだ!りぼんの人たちに頼もう)というのがひらめいて、自分からりぼんの事務所に「月×日に男子バレーの試合があるので連れて行ってください。」と頼みました。快く引き受けてくれて最初に訪ねてくれた同年の男性健全者と歩ける脳性麻痺の女性とで自動車で連れて行ってくれました。私が19歳の時でした。それが他人と外出した初めての経験でした。自分だけが頼むのは悪いと思ってそれからりぼんの活動に参加するようになりました。

うんどうだんたい あお しば かい
* りぼんから運動団体の「青い芝の会」

が結成されました。私は迷うことなく脳性麻痺者の団体「青い芝の会」に入りました。障害者差別を無くしていこうと障害者自らが運動していこうということで集まった障害者とその支援者のグループです。初めてそこで大人の女性として扱われ「私は大人の女性なんや!」ということに改めて気づかされました。

あお しば かい で あ
* 青い芝の会との出会い

が私を180度変えました。車椅子を私の身体にあうように作ったのが20歳の時でした。それから初めて電車やバスという公共交通機関を利用して外出するようになりました。それまでは、家の自動車やグループの車で出かけていました。喫茶店とかデパートや映画、コンサートに行き始めたのもこのころからでした。

介助者に車椅子を押してもらって町に出かけたら人々の目が異様なものを見るようで「私は私の意志で出ているのに連れて行ってもらっているのではない」という想いがして悔しかったです。かならず店の店員さんや駅の駅員が品物を聞く時や行き先を聞くのは車椅子を押している介助の女性です。「やっぱり障害者っていうのは何も理解できないものだ」って思われている、差別っていうのは根深いものだと思ったのです。そして、どうにかこの状況を変えていきたいと思いました。障害者なんだって胸を張って誇りを持って生きていきたいと思ったのです。そういうことがバネになり自分は一生障害者解放運動をしていこうと思いましたが、当時の青い芝の会は公的介



りはびりを受けるマーさん

ごほしょう もと こうせいしょう げんこうろうしょう こうしょう
護保障を求めて厚生省(現厚労省)交渉や、
しょうがいじ いっぱんしゅうがく もと もんぶしょう
障害児の一般就学を求めて文部省
(現文科省)交渉を頻繁に行っていました。

「79年養護学校義務化阻止(学校は普通学
校1つで良い、統合教育を押し進める。)
活動と文部省交渉を行っていました。その
なかで機動隊との小競り合いもありました。そ
の中で仲間が隊列を作って文部省の玄関前
で座り込みを行いました。

❁ 「障害者でどうして悪い！」という
ことから「障害者もいいやんか！」となり、
「社会を変えていこう！」という意識になり
ました。22, 3歳の頃に親元を離れ、自立
生活をしていこうという決意を固め、いろん
な大学(立命館、同志社、教育大等)に介助

しゃぼしゅう びら くば ある だんだん
者募集のピラを配り歩きました。段々と
かいじょしゃ あつ さい
介助者を集めていきながら、26歳のときに
たんどくせいかつ はい こうさい
単独生活に入りました。そして交際していた
おっと かいじょしゃ ひとり
夫も介助者の一人としてかかわっていきま
した。

❁ 4年後に妊娠したのをきっかけに
にゅうせき かげつ そうざん おとこ こ う
入籍しました。7ヶ月の早産で男の子を産
みました。あまりにも私が活動し過ぎたと
おも かげつ はい あんていき
思います。4ヶ月に入ったとたんに安定期だ
と安心して外出や、活動に参加していった
のが早産につながったと思います。(帝王切
開で1256グラムしかありませんでした。
いま けっこん こども
今では29歳、結婚して子供もいます。)
わたし ねん りこん げんざい
私は2004年に離婚しました。現在
こうさいちゅう かれ い
交際中の彼が居ます。

さかいたにし むかし こーなー こども ころ はこぐるま まき
境谷氏の昔こんなことがあったんじゃ～！コーナー 「子供の頃は箱車」の巻

しひとし たかつきし しょう しょうどう ばいおにあ じりつふおーらむ じゅうちん さかいたにし
知る人ぞ知る、高槻市の障がい者運動のパイオニア、自立フォーラムの重鎮、境谷さんから、こ
のたびありがた～い昔話を記事として提供していただけることとなりました。今回は子供のころの
こと。お若い皆さま、「これなに？」とわからない言葉があれば、昭和の初期をご存知のお母さんや
お父さん、おじいちゃんおばあちゃんに教えてもらってくださいね～。



子どもの頃、同年代の子ども
に、学校帰りに、「あの子アホや
ねんで」とか言われた。母の家
は百姓やから、母親といっし
よに畑へ行とった。父親は大工や。父親
がこしらえてくれた木の車いすに乗って、
畑へ行とった。箱車みたいな感じ。映画で
大ごろうが乗とったやろ、あんな車や。
ほんで10才頃までずっと毎日母親につれ
られて行ってたんや。雨が降ったり、寒か
ったりしたら、近所に心やすい家があって、
そこへ預けられてた。
十ぐらいになって、出るのがいやになっ
て、家におるようになった。兵隊に行っ
た兄貴が栄養失調で帰ってきたからいっ
しょに1年8か月家にいた。兄貴と遊ん

でた。兄貴が寝てる枕もとで遊んでた。
1年8か月して、その一番上の兄貴が死ん
だ。栄養失調
で。
シベリアに
抑留されと
ったから。
それから、外
へ出るの嫌に
なったから、
家ん中に約
20年おった。
足が痛くなってきて、39の時、手術した。
20年、ラジオ聴いたり、テレビ観たりしと
った。外へ行きたいと思えへんかったな。小
さいときにいやな目におうてるから。
(次号の「車いすと識字の巻」)



気まぐれコラム d() ちよっとあんた、知つとりやあす~?

私のまち、あなたの街 巻頭にも書いてますが先日、高障連さんの「対市交渉」というのに参加してきました。市の方の対応を聞いていて何とも言えぬ違和感がいくつもあり、そのうちのひとつが「移動支援」の在り方です。移動支援は地域生活支援事業と言って、運用の仕方が自治体によってだいぶ違います。うちは大阪市に利用者がいるので大阪市移動支援事業所 集団指導にも出るのでありますが、高槻市と大きく違うので違和感を通り越して「違う国みたい」と茫然です。

たとえば大阪市の集団指導でもらった資料に「Q:施設入所している全身性障がい者が、一時帰宅を行った場合の入浴介助について、移動支援事業による対応は可能でしょうか?」とあり、答えが「A:一時帰宅時の対応については、家族による対応を前提としているところですが、帰宅先で居宅介護を利用する必要性が認められる場合は、移動支援事業による対応を可能としています。」とあります。高槻市の場合には、「移動支援は屋外の移動を支援するもの」と言われ、外出準備の着替えやおトイレでさえ、「移動支援のサービス内容に含まれない」と、むちゃなことが堂々とルール化されています。(「高槻市地域生活支援事業に要する費用の額の算定に関する留意事項について」より)「車いすは押しますが外出準備は手伝いません」では、合理的配慮に欠けるルール、つまり、障害者基本法第2条にある「社会的障壁」だと言えるでしょう。

屋内か屋外かじゃなく「住まう」ことの支援か、「地域や社会と交わる」ことの支援か、ではないでしょうか。大阪市の場合、施設に入所している方の「帰宅」を外出の一つとして移動支援で入浴介助をするのですね。したがって、宿泊先についても「旅行中であっても、旅館到着後、就寝までの介助を移動支援で行うことができる」となっています。一方高槻市は(我がミカッシーが交渉したとき)最初、「宿泊施設内の介助は居宅だから移動支援は利用できない。」とおっしゃり、「それは変です。宿泊施設は住んでるところじゃなく外出先ですよ。」という奇妙なやり取りをい~ろいろ行い、やっと「ホテルは居宅」という妙な理屈を引っ込めて「計画を書いて出す」ことを条件に、宿泊先での入浴や就寝介助を移動支援で認める、ということになりました。

私たちは「お風呂入りたい」とか「旅行したい」とか、人間として当たり前のことを当たり前前に支援して、「気持ちよかった」「楽しかった」「支援してよかった」と当たり前前に生きていきたいですね。住む街が違って、人間は同じですもんね。(な)

3月の自立フォーラムの予定

毎週木曜日はクラフトの日!

カワイイ手作り品作り、お気軽に体験しに来て下さい
セラピードッグも来ています! 13時半~無料です!!

訓練を受けた犬達とゲームをしたり、散歩したり、自然と心と体のリハビリに。

3月13日、27日金曜日開催予定!!ワンちゃんも待ってます。きてネ!
「ミカマーケット」は今回はお休みです!すみませ~ん(>_<)

3月17日火曜日は映画鑑賞の日で~す^^

お待ちしてま~す

お問い合わせは自立フォーラムまで 072-672-8532